



KAHF ニュースレター

〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町 2-2 京都市国際交流会館 3 階

財団法人 京都国際文化協会内

京都ホストファミリー協会 (KAHF)

No. 10

2011 年 3 月発行

2011 年度 行事予定

- 4 月 24 日(日)
・ケーキパーティ
(吉田南キャンパス生協 2F)
- 5 月
・ハイキング
- 7 月
・祇園祭
- 10 月
・大原バーベキュー(予定)
- 2012 年
- 1 月 15 日(日)
・新春親睦パーティ・バザー
(国際交流会館イベントホール)
- 3 月
・総会ファミリーの集い

KAHF ファミリーの皆様方、日頃から留学生の生活に気を遣って頂き有難うございます。昨年度創立 25 周年を迎え、今年はこれを受けての第一歩の年でした。

昨年度総会で紹介された、政府の留学生 30 万人計画が進行しつつあります。私はこの夏、日本語指導のためタイ・チェンマイの高校へ 3 週間行ってくる機会を得ましたが、その時東京の有名私大二校が提携を求めてきているのに出会いました。少子高齢化、グローバル化にあって優秀な留学生を確保し、学校間競争に勝とうとする必死な努力をまざまざと見せ付けられました。

留学生の急増は家族一緒の来日も多くなっており、私たちカーフの活動にも大きな影響を与えています。日本語を全く話せない学生・家族、夫(妻)の研究への情熱を最優先させ自分の仕事を捨ててやってきたつれ合い、アジア・アフリカの小国から国を代表して京都にやってきた学生……。彼ら学生・家族に出会う度に、日本との文化の違い・意思疎通の難しさに苦しみ、日本人と話せたらいいなと切に思っていることを感じてきました。

私たちの小さな国際交流が彼らの心を暖め日本での生活を充実させます。日本人の家庭に招かれ、また日本の伝統文化に触れた思い出は一生の宝物として心に残るでしょう。このことは将来、国と国のパイプとなると信じています。しかしファミリーの数が圧倒的に不足しています。私たちのこの取り組みに大きな意義を感じて、近くにいる友人・知人に声をかけ、カーフの輪を広げていきましょう。

仲村邦彦

本年度の活動に対して京都市国際協会から、国際交流活動助成金を頂戴しました。有難うございました。

前号のこの欄でホームページリニューアルのお知らせをしました。その後も関係者のご努力でますます充実したものになっております。ホームページには、「KAHF の紹介」、「ホストファミリーを希望される方」などのページに KAHF の活動趣旨や受け入れ学生とファミリーとの交流についてのガイドライン、また「年間行事」のページには当年度実施の行事報告、「ニュースレター」のページにはニュースレターのバックナンバーが掲載されています。

新しいファミリーの勧誘の資料にご活用いただければ幸いです

KAHF ホームページ URL : <http://kahf.web.fc2.com/>

行事報告

2009年度 総会（ファミリーの集い） 2010. 3.20（土） 13:00 - 16:00

A: 22名、 B: 18名、 合計: 40名のHFが京大会館 Special Room 室に集まり、先ずは、尾池京大前総長肝いりのエビフライ入り洋食弁当の昼食。その後、代表（谷垣）からのKAHF設立25周年記念事業を含むH21年度行事の報告とH22年度行事の予定、会計報告と続き、KAHF最初からのメンバーである西芳子様から「KAHFの歴史」と題して、KAHFの設立当時の貴重なお話を伺った。その後で、ティータイム（歓談）となり、留学生の変化とそれに対するHFとしての対応、留学生30万人計画に関するKAHFとしての取り組み、各種の行事の提案など、活発な意見交換がなされました。



春の行事

ケーキパーティー 2010.4.25（日）

毎年恒例のケーキ・パーティーが今年も京都大学吉田南キャンパス・生協吉田食堂2Fで行われました。この時期は新しい留学生が大学に来てしばらくの時期で



あり、留学生がKAHFに申し込んでくれるタイミングを狙っています。この日のファミリーの参加者は46人、出席した留学生は約100名でした。その内の35名の留学生が申し込んでくれて、HFを決めるのに嬉しい悲鳴をあげることになりました。ケーキ、お菓子和飲み物で歓談後、簡単なミニバザーもあり、留学生に喜ばれました。



春のハイキング（御所） 2010.5.16(日)



昨年、インフルエンザ騒ぎで中止になってしまいました春のハイキングを再計画しました。当日はお天気にも恵まれ、HFおよび留学生が多数集まりました。中立売御門に集合し、出水の小川 閑院宮跡(拝観) 巖島神社 堺町御門と散策し、母と子の広場でお弁当を広

げました。京都に居ながら御所をゆっくり散策する機会はなく、新しい発見が沢山ありました。昼食後は、解散とし、三々五々散策を楽しみました。



夏の行事

浴衣着付け教室 2010.7.10(土)

参加者 5 名 留学生は初めて着る「KIMONO」に大はしゃぎでした。 ネットで買い持参した浴衣、日本のお母さんが用意してくれた浴衣、それぞれ一回はファミリーに着付けてもらい、その後浴衣を脱ぎ、今度は最初から自分で、



と熱心に取り組んでくれました。意外に難しいのは男性の角帯でした。中国からの施君は最後にたたみ方も教わって「とっても楽しかったと」言っていました。



祇園祭(宵々々山)参観 2010.7.14(水)

生憎降ったり止んだりの雨にも拘らず、KAHF 恒例の船鉾、岩戸山の参観に、留学生約 60 名、ファミリー約 30 名と大勢の参加があり、楽しく過ごしました。お世話下さった方々に厚く御礼申し上げます



料理教室 2010.8.8(日)

ウィングス京都で 埜村講師指導のもと巻き寿司作りに挑戦しました。



秋の行事

大原バーベキュー大会 2010.10.24(日)曇りのち小雨、参加人数 122 名。

お天気が危ぶまれる中今年も無事に大原BBQの日がやってきました。メニューは 焼き肉 ソーセージ 炊き込みご飯、それに今回は趣向を変えて、いつもの焼きそばの代わりに水餃子に挑戦。先生は中国の学生と B



西村夫人。中身はお祈り済みのチキンに エビ 白菜 キャベツ ニラ ネギ。皮の生地もそれぞれの家庭で粉をこねて持ってきました。大変でしたが、共同作業のにぎやかな様子はすばらしいですね。焼き肉も炊き込みご飯もあっ





という間に売り切れ、私の口には入りませんでした。

最後は雨が降って来たので和室でビンゴゲーム。みんな何が当たっても楽しそうでした。準備や片付けを手伝って下さった皆様ありがとうございました。
(H.N)



京都市市民防災センター見学 2010.11.21(日) 快晴

絶好の紅葉日和の為か参加者は 11 名でしたが、ゆっくり細かく見ることが出来ました。(I.H) 京都は最近大きな地震は来ていませんが、方丈記の時代から何度か大きな「なみ」に見舞われています。油断大敵、地震のない国から来た人たちに大地の揺れを実感してもらっては万一の時パニックに陥ることを何がしか防げるのではないのでしょうか。



冬の行事

2011 年新春親睦パーティー・バザー 1月16日(日) 14時 京都市国際交流会館

留学生とその家族約 120 名、ファミリーは A、B 合わせて 52 ファミリー、見学参加 4 ファミリー、計約 200 名が集まりました。



西村さんの司会で谷垣代表の挨拶、畑さんの音頭による乾杯の後歓談に移り、普段は会えない友人や新しく知り合った友人、ファミリーを交えて新年の交歓を楽しみました。その後、インドネシアからの留学生、ロニーさんレニスカさんへ



ニーさんたちによるインドネシアの歌と舞踊が披露されました。またロジャー・パーマーさんの軽妙な進行で子供たちへお年玉が配られました。最後に山本夫妻による歌唱指導で「幸せなら手を叩こう」「故郷」をみんなで合唱し和気藹藹の親睦会を終わりバザーに移りました。



今年も多くの留学生、ファミリーの皆さまとともに新春を祝うことができました。



ファミリーからの寄稿

私のKAHF

畑 勇

私のKAHFとの出会いは、メンバーの奥田さんに「海外からの留学生と親しく話が出来よ。」と誘いを受けたことがきっかけです。45年のサラリーマン生活を終えた後、目的を持って出来る何かを探していました。外国の方に知ってほしい場所が京都に数多くあり、京都を通じて日本の良さを知ってもらおうと同時に、京都人の良さも知って欲しいと考えました。

「出来る範囲で、やってみたい」との意向を伝えると、早速インドからの留学生を紹介いただき、4年前祇園祭を一緒に楽しんだのが私のKAHFのスタートでした。船鉾見学など、初めての経験にうれしそうに写真を撮っていた彼の様子が昨日の事のように。彼は菜食主義者だったので、何をすすめていいのかわからないまま、中華料理店ではじめて食事をしました。メニューを一生懸命見て、豚肉抜きチャーハンをオーダーしたものの、チャーハンのなかにこまぎれのタコを見つけて、一つ一つ丁寧にフォークで取り出して、おいしそうに食べていたこともいい思い出です。

お能の鑑賞会・翔の会のご報告 藤本 治美

日時：11月13日(土)午後1時～5時 於：京都観世会館

演目：能 卒塔婆小町 武田邦弘

狂言 素袍落 茂山七五三、茂山逸平、茂山千五郎
舞囃子 葛城 片山幽雪能 葵の上 武田大志

紅葉の美しい頃、留学生・ファミリーの皆様と観世流のお能の会に行き参りました。此の度、私の知人で代々観世流能楽師をされています武田様の奥様からKAHFの留学生とそのファミリーに招待券をご寄付頂きましたので、世話人の皆様にお知らせ致しました。日頃、皆様には関心の薄いお能の会・・・と思っておりましたら、すぐにお申込みがあり券が足りなくなり部外者の方にはお断りさせて頂きました。(どうか、ご了承下さいませ)

当日、会場は満席で、留学生は生まれて初めて見る老

その後、現在も在学中のエジプトの女子留学生をご紹介いただきました。彼女は、食事はもちろんのこと、イスラムの教えやご両親の言葉を忠実に守る方です。お母様が大病にかかられた時は、学業も半ばで帰りたくても帰ることが出来ず、とても落ち込んでいました。回復を祈り続けたことでしょうか、これほど辛かった時期はなかったでしょう。幸い今は小康を得たと聞いています。

現在は、イラン・エジプト・ベトナムからの5名の留学生を担当させていただいています。KAHFの催しの折には誘い合って参加して、彼ら以外にも、中国・韓国・マレーシア・タンザニア・モロッコ……等々、「こんなに遠い国から」と思う学生さんとも話すことができ、何度かご近所のファミリーのお宅で留学生ともども交流を楽しませていただきました。

自分の生まれ育った国を後にして、遠く離れた日本、しかもこの京都に良く来てくれたものと思います。拙い語学力では、彼らの生活や考えていることはほんの一部しか理解出来ませんが、彼らの笑顔を見る時、何よりもうれしく思います。

松の美しい能舞台と、橋掛かりの五色の揚幕に感動しておりました。参加した留学生は皆、大学で日本文化として能狂言を学び、能に大変興味を持ち事前にDVDを見たり、お謡や仕舞を習っている人もいました。しかし実際に能楽堂に入るのは初めてという事でした。事前に、留学生に理解を深めて頂く為に「卒塔婆小町」のあらすじと見どころを英訳しまして、必要な方にはお配りしておきました。

翌日、参加した留学生の皆さんからお礼と感謝のEメールやお電話を頂きました。若い留学生が4時間にも及ぶ長時間、翻訳の字幕もなく、同時通訳のイヤホンも



なくよく座って鑑賞出来た事と、感心致しました。そして私からのお返事のEメールにお能の面白さについて、下記のように書き加えておきました。

～能は、所作が大変ゆっくりで、その一つ一つに約束事があり、又、科白や謡は日本語の古文ですので、外国の方には（我々日本人にとっても）説明なしに理解するのは難しいことです。しかしその約束事や謡の意味を知ると、お能を楽しく鑑賞できます。能の面白さは、人間の情念の世界を表現しているところにあります。例えば、「葵の上」では高貴な女性の嫉妬心が生霊として表われ、「卒塔婆小町」では年老いても捨てきれぬ、元・才色兼備の小町の高慢さと気位の高さが、又、深草の少将の怨恨が怨霊として表現されているところです。それらは、又能面や能装束にも、そして謡や鼓や笛や太鼓の音色にも表現されています。～

留学生の皆さんは、お能や狂言にとっても興味を持って下さったようで、「貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。」と大変喜んでいました。

今回、留学生をお能の会にご招待下さいました武田様ご夫妻に紙面をお借りして心から御礼申し上げますと共に、KAHFの会員の皆様にもご報告させて頂きます。以上



編集後記

・ニュースレターNo.10 を手に取られて、まず従来の潤いのある遊び心豊かな誌面に比べて大変無骨な誌面になったことにお気づきと思います。年寄りのやることです。まさしく「爺むさい」ですね。クリップアートなどセンス良く使いこなせるといいのですが。誌面の編集はMS-Wordで行いました。作成にあたってT.F.氏に大変お世話になりました。

・記事は主としてKAHFホームページの年間行事に掲載されたものを転用しました。

・今年度新規入会ファミリーは10ファミリー、退会は3ファミリー、新規留学生は34カ国、85名になりました。ファミリーの入退会や新規留学生の詳細は、別紙としファミリーにのみ配布することにしました。個人情報の取り扱いにご配慮いただければ幸いです。